



新しい年を迎えて

郡上市、満十五歳の春を迎えて

明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年は、三十年余続いた「平成」から元号が改まり、「新元号」のもとに新しい時代へと一步を踏み出す歴史的画期の年となります。来るべき時代が、幸多き時代となりますよう祈ります。

郡上市も、今年三月一日で「合併・市制施行満十五年」の春を迎えます。人間で言えば、中学生から高校生になる年齢です。これまでは、合併に伴う財政上の特例措置など、国から一定の支援を受けて来ましたが、新年度からはそれらが無くなり、一つの都市自治体として、「自立」していくことを一層強く求められています。十五年間の新市づくりの「基礎工事」のうちに、みんなが安心して暮らし続けられる、魅力と活力のある「ふるさと郡上」をみんなの力でつくっていきましよう。

昨年は、郡上市産業プラザ、郡上市歴史資料館、まん真ん中広場人工芝生グラウンド、叭高原スポーツ広場管理棟、道の駅「白山文化の里長滝」の中核施設（改築）などが相次いで竣工いたしました。これらの

施設を満度に活用しながら、産業・文化・スポーツの振興、三年度目を迎える「観光立市郡上」の取り組みなどをさらに進めていきたいと存じます。

また、昨年は、豪雨、酷暑、台風による停電など、「災害の年」でもありました。郡上の災害史を振り返ってみますと、奇しくも今年は、八幡町北町の大火（大正八年）から百年、和良下沢の大火（昭和二十四年）から七十年、伊勢湾台風（昭和三十四年）から六十年、奥美濃地震（昭和四十四年）から五十年、九・一五豪雨災害（平成十一年）から二十年などとなります。過去において郡上を襲ったこれらの災害が、揃って丁度節目の年を迎えるということは、「気を付けなさいよ」「備えを怠ってはいけませんよ」という天の啓示かもしれません。近きは昨年の体験に基づき、遠きはこれらの災害の歴史に学び、これからの「防災・減災」対策について、改めてこれを進める年にしたいと存じます。

新しい年が、皆様にとって佳い年となりますように。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

郡上市長

日置敏明



新年のご挨拶

新しい元号を迎えるにあたり

明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、健やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日ごろは議会活動に対し、格別のご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、一月の豪雪に始まり、六月の終わりに七月中旬の豪雨災害、その後の猛暑、九月四日の台風二十一号の暴風による倒木や長期停電など、近年にない災害の多い年でありました。そんな中で郡上市において、住民の方の人命にかかわるような大きな被害が起きなかったことは、幸いであつたと思います。

今年は平成最後になる年ですが、新しい元号になっても災害のない年であることを願ひ、防災減災対策の強化、市民に寄り添った避難所運営等に積極的に取り組んでいきたいと考えております。昨年、議会が各地域・各種団体と行ってきた災害の検証を活かし、もしもの時に備え、より強靱な郷土作りと、より安心

で安全に暮らせる体制作りを目指してまいります。

平成十六年に合併して以来受けてきた合併特例による交付税の増額措置もついに終わり、これからは一層厳しい財政運営を強いられるなかで、住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを行っていかねければ、日本中の自治体が人口減少対策を行う中で、私たちの郷土は寂れてしまいます。

移り変わる時代の中で、住みなくなる、住み続けた地域を目指し「郡上市 まち ひと しごと創生」を基本理念とするなか、「自分たちの地域は自分たちで作るんだ」と、仲間を作り頑張っておられる団体が、市内各地にあります。行政が先導してきた時代の反省も含め、これからは市民の皆様が先導して行政が後押しするような、そんな形態が出来上がれば「地方創生」も盤石なものになるでしょう。

市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げますと共に、皆様にとって幸多き年になりますことを心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

郡上市議会議長

兼山 博孝